森の通信

宮崎県
総合博物館だより
第7号

The Miyazaki Prefectural Museum

発行日/平成元年5月15日

発行／宮崎県総合博物館　〒880 宮崎市神宮2丁目4番4号　TEL (0985) 24－2071

エンデ父子展

エトガー・エンデ「サトゥルヌスの踊り」一九五九

絵と文学でえがくファンタジー

20世紀の半ばヨーロッパでは、美術、文学など広い範囲にわたってシュールレアリスム（超現実主義）の運動が起こり、美術ではマグリット、キリコ、ダリらが活躍しました。

エトガー・エンデは、彼等と同時代に生きながら彼等とは交わることなく、シュールレアリスムの作風を求め、孤高の画風をうちたて幻想と神秘に満ちた多くの作品を残しました。最近になって発見された彼の作品群は、20世紀美術の最後にして最大の発見として注目されています。

その子ミヒャエル・エンデは、世界的なベストセラー「モモ」「はてしない物語」などメルヘンの世界を描く童話作家です。これらの物語は現代が抱えているさまざまな問題を鋭く指摘しています。その思想の源には、父エトガーの影響が強く感じられます。

この展覧会は、二人の作品を密接に組み合わせながら、父と子が共有する神秘とファンタジーの世界を油彩画、自筆原稿、挿絵原画など150余点で紹介するものです。

会　期

平成元年5月13日(土)～6月11日(日)
午前9時～午後4時30分
休館日－5/15・5/22・5/29・6/5

入館料

大　人 700(500)円
高大生 500(300)円
小中生 300(100)円
※(　)内は前売、団体（20名以上）の割引料金

話題のコーナー

江戸時代の旅

昔の旅行はどうしていたでしょう

江戸時代は現代と違ってずいぶん手間ひまのかかる旅行だったようです。武士であろうと町人であろうと自分の属する組織の長に申し出をしなければならなかったようです。例えば、武士の場合はその藩の家老にも匹敵する組頭に、町人の場合は町年寄に届出をし通行手形を得て旅行していたようです。

当時の旅行というのは公私用にかかわらず優雅なもので、旅程のほとんどが徒歩によるものでした。病気とか供が女性であったという以外は馬や駕籠は使用しなかったようです。左の写真は幕末の日本をヴェネチアの写真家F・ベアトが撮影した東海道の風景です。中央に同心が目明しを連れ、その左右には旅人が休息しています。この写真のように、現代の私たちにはのんびりとみえるのですが、旅行そのものは雨露にうたれたりして肉体的にもかなりの疲労があったと思われます。

街道の両側に土塁がほどこされ、松が植林されています。これは、陽よけや防風にも役立っていたようです。しかし、一旦雨風が吹くと街道はぬかり、旅行はきわめて困難であったことを幕末のイギリス人アーネスト・サトウの日記にもみることができます。

宿場や城下の街道は、往来も多いのですが、その町を過ぎると深い松並木にだかれた道を旅するのですから無用心であり、ある意味では命がけの旅行だったとも考えられます。

森のゼミナール（資料紹介）

中国奥地にすむチョウ

この写真は、一体何の仲間のチョウと思いますか。モンシロチョウの仲間にそっくりですが、実はアゲハチョウ科なのです。これらは薄いはねをもつことから、普通ウスバシロチョウとかウスバアゲハと言っています。約36種からなる原始的なチョウで、チベットを中心とする中央アジアの高山帯に多く生息しています。

特に中国の奥地は政治上や交通の難所のため、調査研究がおくれていて、ようやく最近になってこの仲間が一般に知られるようになりました。主として、チベット高原・南山山脈・天山山脈の2,000～5,000メートルの高地で見られ、高山植物のお花畑などを飛んでいます。地形が複雑なことと永年の気候の変化のため、同種でも山や谷ごとにはねの模様が異なり、一見別種を思わせるものもいます。また、幼虫は、キケマン類やベンケイソウなどの山野草を食べ、成虫になるまで3年以上を要することがあります。きびしい条件下で生きているこの仲間は、見た目からは想像できないようなたくましさを持っています。

ブルゼワルスキーウスバの雄

特別展
「大淀川の自然」好評のもとに終わる!!

昭和63年度の最後を飾った特別展「大淀川の自然」は1月21日にオープンし、26日間の会期を経て、2月19日に無事終了しました。

この展示会は宮崎県最大の一級河川・大淀川に生息する生き物たちにスポットを当てたもので、600点を越えるはく製や乾燥標本の他、写真や解説パネルなどを展示しました。大淀川は折から浄化運動が高まってきており、また宮崎市では大淀川学習をカリキュラムに取入れるなど、大淀川に対する関心は日増しに高まっていました。会期中、日曜日には子供を連れた家族が多く見られ、標本や写真をながめては会話のはずむほほえましい光景がよく見られました。また、平日には学校からの団体見学が多く、子供達の歓声が一日中聞かれました。

この展示会は多くの反響を呼び、来館者からは、こんなにたくさんの生き物たちがいるなんてびっくりしたとか、川をきれいにしないといけないとか、これから大淀川にどしどし出かけて自然に触れたいなど多くの声が聞かれました。

入館者は全部で五千人を越え、盛会の内に幕を閉じた「大淀川の自然」展でした。

埋蔵文化財センター紹介

埋蔵文化財センターの入口の中庭に面して回廊があります。この回廊部分には埋蔵文化財保護のしくみや県内の遺跡に関するパネル・写真などが展示してあります。さらに、整理研究が終了した遺跡について、随時、調査の成果を展示するコーナーもあり、発掘された遺跡の様子が一目でわかるようになっています。また、現在発掘が行われている遺跡の情報も掲示しています。なお、回廊からは復元作業の様子が見学でき、割れた状態で発掘された土器がどのように復元されていくのかがわかるようになっています。

このほか、毎月第4土曜日には「遺跡をたずねて」映写会をおこなっており、文化財を扱った映画等を上映しています。5月27日には前年度に県内でおこなわれた発掘調査のうちから重要な遺跡の発掘調査成果を報告する埋蔵文化財講座を開催します。また、11月には文化財保護強調週間にちなんでセンター施設の公開もおこなっています。

入場無料ですので、ぜひ、一度ご覧になってください。

行ってみたいな!!

サイエンスカプセル
宮崎科学技術館

宮崎科学技術館（愛称コスモランド）は、宮崎市の中央公園文化の森の一角に市制60周年記念事業として昭和62年８月オープンしました。21世紀を担う子供達に科学する心を育て、創造性を培う場として今日も賑やかな子供の声が館内に響いています。

当館の特徴は建物全体（床や壁等）が展示物となっており、館内の展示は「遊びと体験」から科学を学習できるように設計されています。また、直径27ｍのドームを持つプラネタリウムは四季の美しい星空と壮大な宇宙ドラマで夢とロマンを提供しています。そのほか人工衛星ＥＴＳＶ（実物）や、この衛星を打ち上げたＨ－１ロケット（実物大40ｍ）も見逃せません。

当館では展示だけでなく科学講演会や「星空と音楽の夕べ」等の文化活動や、館内の設備を使っての各種教室（パソコン・天文・科学・工作等）を定期的に開催し、チビッ子博士や市民の方々に喜んでいただいています。

当館では、今後ともいろいろな楽しい企画で皆様のお越しをお待ちしています。是非コスモランドへお出かけ下さい。

（宮崎科学技術館長　緒方国博）

●案内　宮崎市宮脇町38番地３
ＪＲ九州宮崎駅下車徒歩10分
宮交バス市内８番線「文化の森」バス停下車
ＴＥＬ0985－23－2700

８月までの催しもの

	５月	６月	７月	８月
特別展	13日 エンデ父子展	11日		
自然史	カンアオイの仲間		23日	25日 いろいろな鉱物
考古	よそから来た土器Ⅰ（弥生）		16日	18日 同笵鏡
歴史	江戸時代の旅		9日	11日 昔の衣装
民俗	仕事着		9日	12日 狩猟用具
美術	明治に生まれた美術家(一部) 4日	13日 明治に生まれた美術家(二部)23日		15日 塩月桃甫展
埋蔵文化財センター	13日	熊野原遺跡Ａ・Ｂ地区（宮崎市学園木花台）		
西都原資料館	焼畑用具（米良地方）		23日	25日 炊事用具(西都・米良地方)
〃	元地原地下式墳墓群（西都市）			

森の名画座……5/6 愛と追憶の日々，7/5 南極物語，8/5 夏休み子供映画会
森のコンサート……5/12 音楽の夕べ
森の学習会……5/5 遺跡を知ろう，5/4「エンデ父子展」の世界，5/14西都原古墳群と風土記の丘
埋蔵文化財センター……5/5 第３回埋蔵文化財講座，5/4・7/5・8/6 遺跡をたずねて（映写会）
普及活動……7/6・8/6 自然観察会，8/5 採集作品の名前を調べる会